

## 安全データシート

### 1. 化学品および会社情報

化学物質等の名称	炭酸カリウム(Potassium carbonate)
製品名	炭酸カリウム
整理番号	ZC17005-03
会社名	善ケミカル株式会社
住所	東京都台東区台東2-30-2 善ビル3階
電話番号	03-3839-5861
緊急時の電話番号	03-3839-5861
FAX番号	03-3839-5877
推奨用途および使用上の制限	石けん、ガラス、陶器、赤色顔料、各種カリウム塩の製造、エッチング、リソグラフィ、皮のなめしや仕上げなどの工程、シャンプー、分析化学で有機溶剤の脱水、医薬品助剤(アルカリ化剤)

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性	-
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 区分4 皮膚腐食性/刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2A
環境に対する有害性	-

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については「分類対象外」、「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。

#### ラベル要素

#### 絵表示またはシンボル



#### 注意喚起語

警告

#### 危険有害性情報

H302 飲み込むと有害  
H315 皮膚刺激  
H319 強い眼刺激

#### 注意書き

##### 【安全対策】

P264 取扱い後は手や顔、眼などをよく洗うこと。  
P270 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。  
P280 適切な保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。

##### 【応急措置】

P301+P317 飲み込んだ場合: 医療処置を受けること。  
P330 口をすすぐこと。  
P302+P352 皮膚についた場合: 多量の水で洗うこと。  
P332+P317 皮膚刺激が生じた場合: 医療処置を受けること。  
P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
P305+P351+P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。つぎに、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
P337+P317 眼の刺激が続く場合: 医療処置を受けること。

##### 【保管】

P403 換気の良い場所で保管すること。  
P404 密閉容器に保管すること。  
P410 日光から遮断すること。

##### 【廃棄】

P501 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

他の危険有害性

情報なし

### 3. 組成および成分情報

単一物質・混合物の区別

単一物質

化学名または一般名

炭酸カリウム(Potassium carbonate)

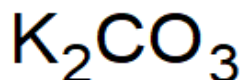
別名

炭酸カリ、カリウムカルボナート、炭酸ニカリウム

分子式(分子量)

$K_2CO_3$  (138.21)

化学特性(示性式または構造式)



CAS番号

584-08-7

官報公示整理番号

化審法：(1)-153

安衛法：公表化学物質

分類に寄与する不純物および安定化添加物  
濃度または濃度範囲

情報なし  
99.0%以上

### 4. 応急措置

吸入した場合

空気の清浄な場所に移すこと。  
呼吸が弱かったり、止まっている場合には、衣類をゆるめ、人工呼吸を行うこと。

皮膚に付着した場合

気分が悪い場合には、医師の診断/手当を受けること。  
ばく露、またはばく露の懸念がある場合には、医師の診断、手当を受けること。  
汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てること。  
多量の水と石けんで洗いおとすこと。

眼に入った場合

皮膚刺激が生じた場合には、医師の診断、手当を受けること。  
汚染された衣類を再使用する場合は多量の水ですすぎ洗いすること。  
ただちに多量の清浄な流水で数分間注意深く洗い流すこと。  
コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

眼の刺激が持続する場合には、医師の診断、手当を受けること。  
口をすすぎ、うがいをすること。  
意識がない場合は何も飲ませず、無理に吐かせないこと。  
速やかに医師の診断を受けること。

予想される急性症状および遅発性症状の最も重要な兆候および症状

吸入：咳、咽頭痛。  
皮膚：発赤。  
眼：発赤、痛み。  
経口摂取：喉や胸部の灼熱感。

応急措置をする者の保護  
医師に対する特別注意事項

情報なし  
情報なし

### 5. 火災時の措置

消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類。周辺に適切な消火剤を選択すること。

使ってはならない消火剤  
特有の危険有害性

情報なし  
本製品自身は不燃性で燃焼しないが、加熱されると分解して、腐食性および/または毒性の煙霧を発生するおそれがある。

特有の消火方法

火災によって刺激性、腐食性または有毒なガスを放出するおそれがある。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
安全に対処できるならば、着火源を取り除く。

消火を行う者の保護

不燃物であるから、周囲の火災に適切な消火剤を選択し消火する。  
火災の危険のある建物および容器などに水噴霧して冷却する。  
耐熱性防護服(耐火服、防災服、耐火服など)を着用すること。  
高温で発生する二酸化炭素による窒息を避けるため、適切な空気呼吸器を着用すること。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

ただちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
関係者以外の立入りを禁止する。  
すべての着火源を取り除く。

	作業の際には必ず適切な保護具(手袋、ゴーグル、マスク、エプロンなど)を着用すること。
	漏洩物中を歩いたりせず、また接触や吸入を避けること。
	必要な換気を確保し、風上から作業すること。
<b>環境に対する注意事項</b>	密閉された場所に立ち入る前には、十分換気すること。
	漏出物はアルカリ性であり、下水溝や公共用水域に直接流してはならない。
	環境中に放出してはならない。
<b>回収・中和</b>	粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移動すること。
	回収跡は多量の水で洗い流すこと。
<b>封じ込めおよび浄化方法・機材</b>	危険がなければまず漏れを止めること。
	水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐこと。
<b>二次災害の防止策</b>	プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐこと。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

<b>取扱い</b>	<b>技術的対策</b>	必要な保護具(保護具、保護眼鏡、保護面など)を着用すること。
	<b>局所排気・全体換気</b>	「8. ばく露防止および保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なうこと。
	<b>安全な取扱いのための注意事項</b>	情報なし
	<b>接触回避</b>	「10. 安定性および反応性」を参照し、混触危険物質との接触を避けること。
	<b>衛生対策</b>	取り扱い後は手などをよく洗うこと。 取り扱い後は眼をよく洗うこと。 使用時に飲食、喫煙をしないこと。
<b>保管</b>	<b>技術的対策</b>	情報なし
	<b>混触危険物質</b>	情報なし
	<b>安全な保管条件</b>	低温で乾燥した風通しの良い場所で保管すること。 密閉して保管すること。 酸類や混触危険物質とは離して保管すること。
	<b>容器包装材料</b>	情報なし

## 8. ばく露防止および保護措置

<b>管理濃度</b>		未設定
<b>許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)</b>		
	日本産衛学会(2001年版)	(その他の無機および有機粉じんとして) TWA(総粉じん) 8 mg/m <sup>3</sup>
	ACGIH(2001年版)	(その他の無機および有機粉じんとして) TWA(総粉じん) 10 mg/m <sup>3</sup>
	STEL	未設定
	OSHA(1993年度版)	(その他の無機および有機粉じんとして) PEL(総粉じん) 15 mg/m <sup>3</sup>
<b>設備対策</b>		この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置し、その位置を明瞭に表示すること。
<b>保護具</b>	<b>呼吸器の保護具</b>	適切な呼吸器保護具(防塵マスクなど)を着用すること。
	<b>手の保護具</b>	耐薬品性の保護手袋(塩化ビニル製、ニトリル製など)を着用すること。
	<b>眼の保護具</b>	サイドシール付き保護眼鏡、ゴーグル、保護面などを着用すること。
	<b>皮膚および身体の保護具</b>	長袖の作業衣を着用し、必要に応じて保護長靴、保護前掛けを着用すること。
<b>衛生対策</b>		取り扱い後はよく手を洗うこと。

## 9. 物理的および化学的性質

<b>物理状態</b>	固体(粉末)
<b>色</b>	無色～白色
<b>臭い</b>	無臭
<b>臭いの閾値</b>	情報なし
<b>融点</b>	891 °C : Merck Index(14版、2006)
<b>凝固点</b>	891 °C : Merck Index(14版、2006)
<b>沸点または初留点および沸点範囲</b>	分解
<b>燃焼性</b>	不燃性
<b>爆発下限および上限/引火限界</b>	上限、下限ともになし
<b>引火点</b>	なし(不燃性)
<b>自然発火温度</b>	なし(不燃性)
<b>分解温度</b>	情報なし

pH	11.6(5%水溶液、20°C) : Merck Index(14版、2006)
動粘性率	情報なし
溶解度	水: 111g / 100g (25°C) : Lide (88th, 2001) アルコールに不溶 : Lange (16版、2005)
n-オクタノール/水分係数(log Pow)	log P = -6.19(EST) : SRC (Access on May 2010)
蒸気圧	$2.4 \times 10^{-17}$ mmHg / 25°C(EST) : SRC (Access on May 2010)
密度および/または比重	2.29(g/cm <sup>3</sup> ) (19°C) : IUCLID(2000)
蒸気密度	情報なし
粒子特性	情報なし

## 10. 安定性および反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	法規制に従った保管および取扱い、および通常の保管条件(単独、常温)では安定。
危険有害反応性の可能性	水溶液は中程度の強さの塩基である。 酸、三フッ化塩素と反応する。 金属末と反応する。
避けるべき条件	混触危険物質との接触
混触危険物質	酸、三フッ化塩素、金属末
危険有害性のある分解生成物	情報なし

## 11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラットLD50値: 1870 mg/kg(HSDB(2001), IUCLID(2000)), > 2000 mg/kg(IUCLD(2000))のデータから区分4とした。
	経皮	データがなく分類できない。
	吸入: ガス	GHSの定義による固体。
	吸入: 蒸気	データがなく分類できない。
	吸入: 粉じん および ミスト	データがなく分類できない。
皮膚腐食性/刺激性		ウサギのDraize試験で、刺激指数は2.5(最大値8)、刺激性あり(irritating)の結果(IUCLD(2000))があり、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性/刺激性		ウサギのDraize試験で、平均スコアは角膜混濁2.17、虹彩炎1.33、結膜発赤3.00、結膜浮腫4.00、刺激指数63.2(最大値110)であり、刺激性あり(irritating)の結果(IUCLD(2000))があり、区分2Aとした。
呼吸器感作性		データがなく分類できない。
皮膚感作性		データがなく分類できない。
生殖細胞変異原性		エームス試験およびCHL細胞を用いた染色体異常試験で、陰性の報告(IUCLID(2000))があるが、in vivo試験のデータがないため、分類できない。
発がん性		データがなく分類できない。
生殖毒性		妊娠ラット及びマウスの器官形成期に経口投与した試験で、両種ともに、着床、母獣と仔の生存に対する目立った影響はなく、内臓異常および骨格異常の発生数も対象群との間に差は認められなかった(IUCLID(2000))が親動物の交配前からの投与による性機能および生殖能に対する影響に関してはデータがなく、分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		データがなく分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		データがなく分類できない。
誤えん有害性		データがなく分類できない。

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)	甲殻類(ネコゼミジンコ)の48時間EC50 = 630 mg/L(AQUIRE, 2011)のデータから区分に該当しないとされた。	
水生環境有害性 長期(慢性)	難水溶性でなく(水溶解度 = 500000 mg/L(PHYSROP Database, 2011)), 急性毒性が区分に該当しないことから本項目も区分に該当しないとされた。	
残留性/分解性	情報なし	
生態蓄積性	情報なし	
土壤中の移動性		
	n-オクタノール・水分係数	情報なし
	土壤吸着係数(Koc)	情報なし
	ヘンリー定数(PaM <sup>3</sup> /mol)	情報なし
オゾン層への有害性	物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。	

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化および中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にすること。 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
-------	----------------------------------------------------------------------------------------

## 汚染容器および包装

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。  
使用済み容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って、適切に処分すること。  
空容器を処分する場合には、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

海上規制情報  
航空規制情報

海上輸送上の危険品に該当しない  
航空輸送上の危険品に該当しない

### 国内規制

陸上規制情報  
海上規制情報  
航空規制情報

非該当  
非該当  
非該当

### 特別安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
重量物を上積みしない。  
移送時にイエローカードの保持が必要。

### その他の注意

#### 緊急時応急措置指針番号

情報なし

-

## 15. 適用法令

該当なし

## 16. その他の情報

### 主な参考文献

- 1) 政府向けGHS分類ガイダンス(平成25年度改訂版 Ver. 1.1) 経産省他
  - 2) 15911の化学商品(2011年版) 化学工業日報社
  - 3) 職場の安全データシート 化学物質: 炭酸カリウム 2012年3月30日
- その他個々のデータについては本文中に記載した。

### 記載内容の取り扱いについて

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

改訂履歴      2009年 1月 23日  
                  2018年 8月 21日  
                  2022年 3月 8日

作成  
GHS対応に改訂  
国際輸送上の扱いを更新